

疼痛とオピオイドについて

公立学校共済組合 近畿中央病院 薬剤部 里岡 達哉

2023年11月9日 第6回がん薬薬連携セミナー

本日のテーマ

- 疼痛とは？
- オピオイドの種類と特徴
- オピオイド導入時における服薬指導のポイント

本日のテーマ

- 疼痛とは？
- オピオイドの種類と特徴
- オピオイド導入時における服薬指導のポイント

疼痛とは

国際疼痛学会

実際

お

あ

れ

情動体験

時、

さ

よび

つまり、
どういうこと？

疼痛とは



主観的な症状の為
評価が大切

後悔

侵害受容性疼痛

疼痛の原因

ズキズキ

炎症・変形
などによる
痛み

ピリピリ

神経損傷に
よる
痛み

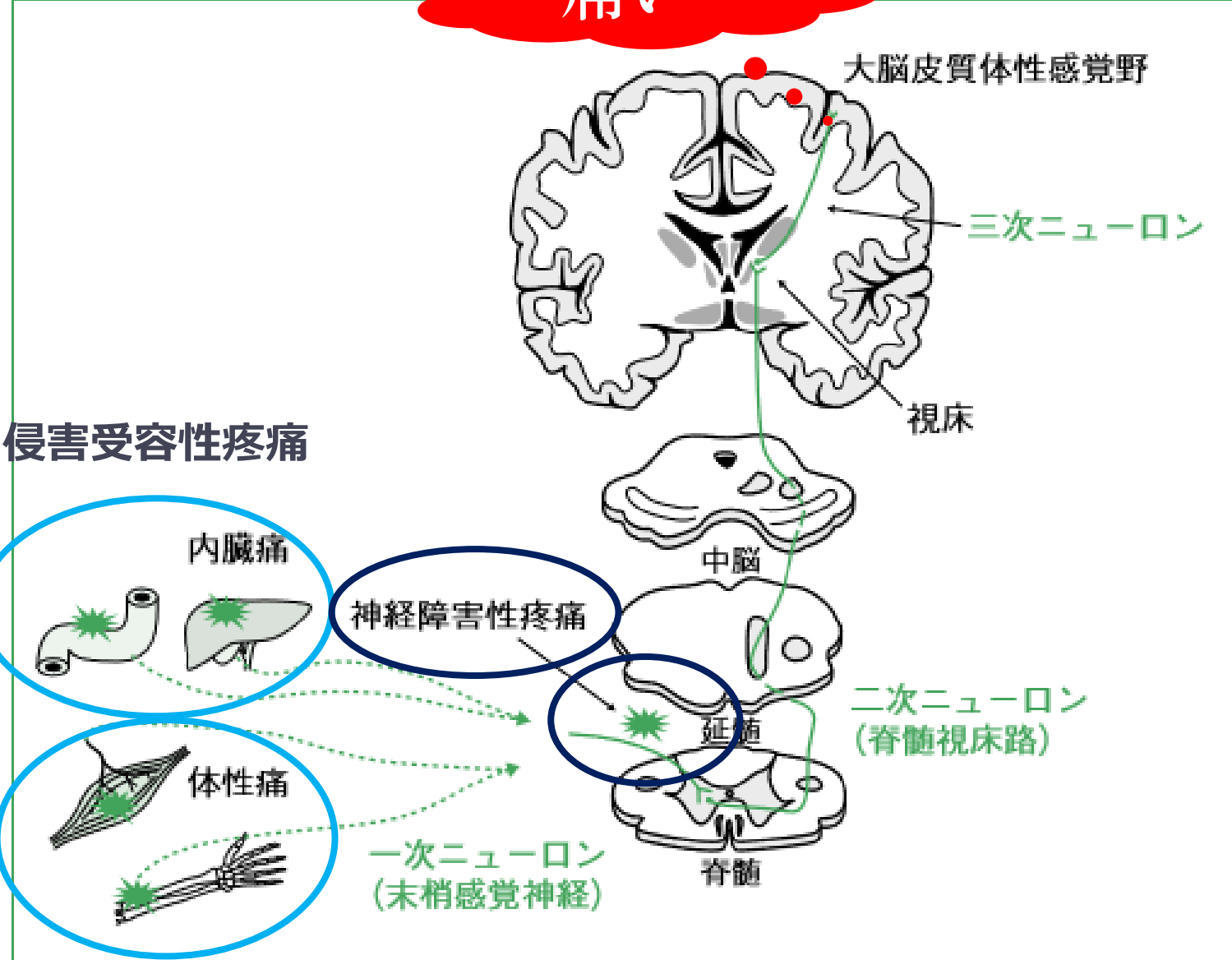
感情
ストレス
による痛み

神経障害疼痛

心因性疼痛

疼痛の伝達

痛い



本日のテーマ

- ・ 疼痛とは？
- ・ オピオイドの種類と特徴
- ・ オピオイド導入時における服薬指導のポイント

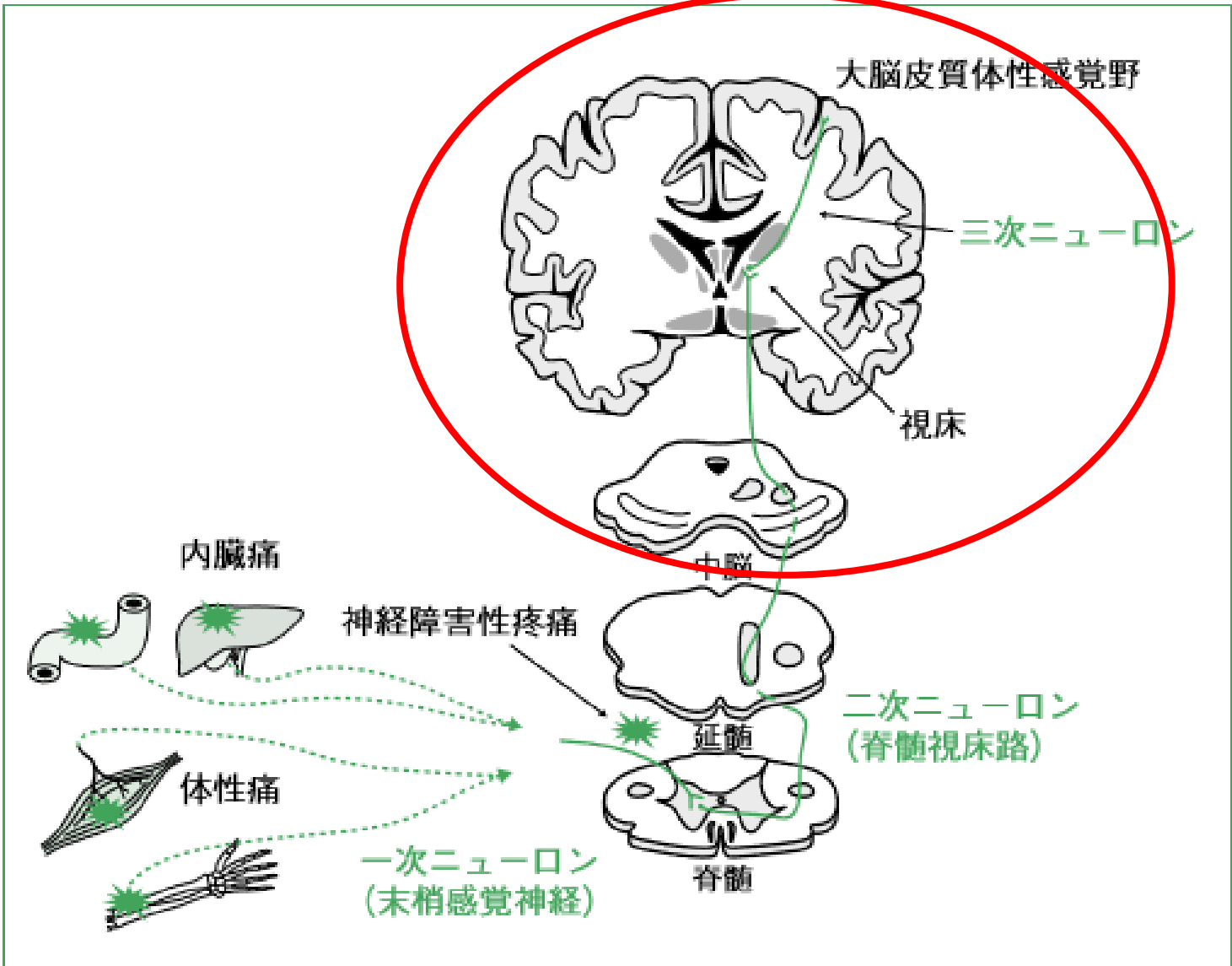
オピオイド鎮痛薬

医療用麻薬

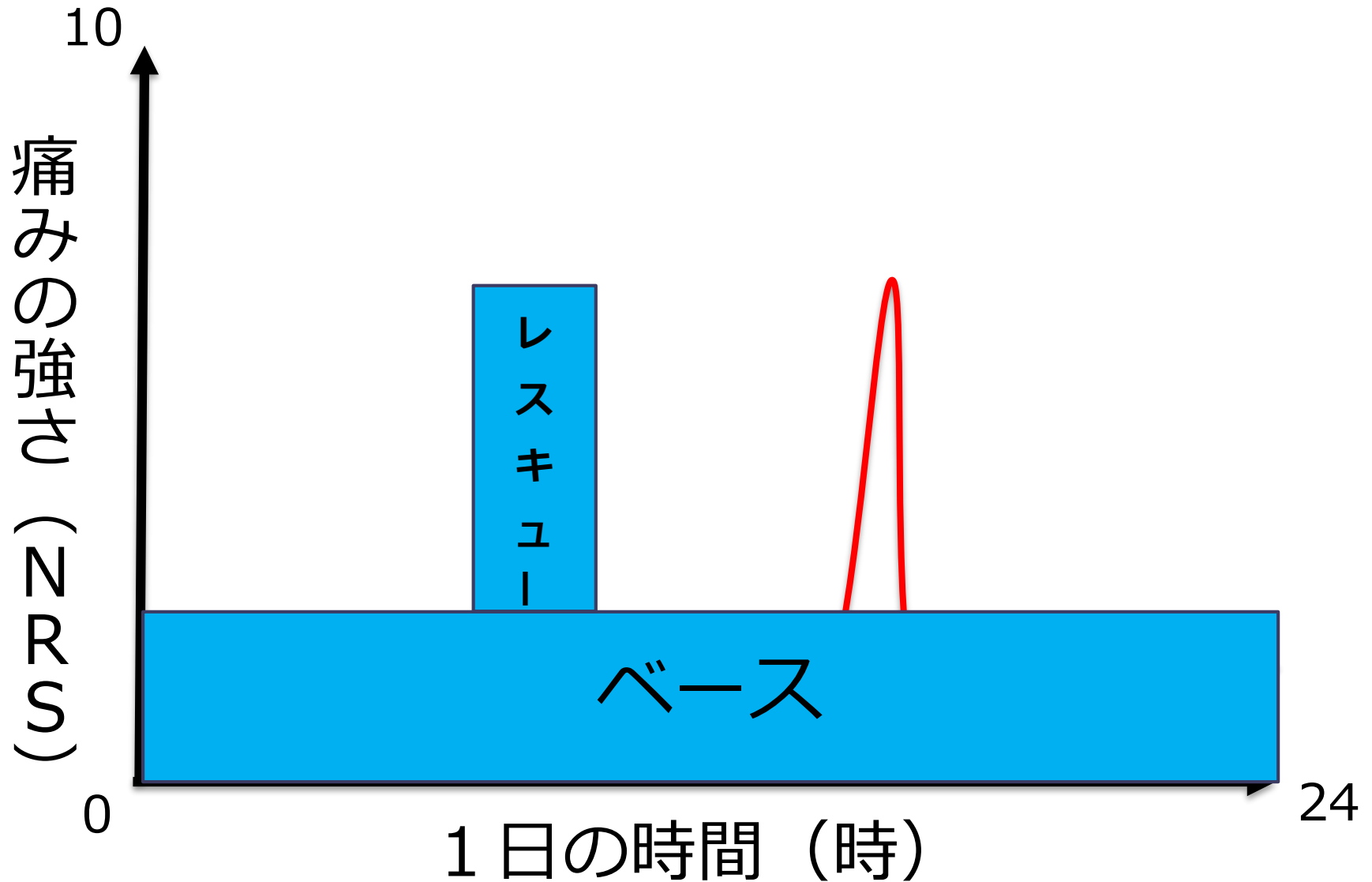
麻薬ではない



オピオイド鎮痛薬の作用部位



<ベースとレスキュー>



一般名

ベース

レスキュー

モルヒネ



オキシコドン



フェンタニル



ヒドロ
モルフォン



モルヒネ製剤の特徴

レスキューの剤型が沢山ある

薬剤相互作用が少ない

腎機能障害があれば使用を控える

モルヒネ錠は激しい咳嗽、下痢にも使用可

オキシコドン製剤の特徴

腎機能障害の影響が少ない

薬剤相互作用が多い

オピオイド導入時に使用する医師が多い

フェンタニル製剤の特徴

腎機能障害の影響が少ない

嘔気、便秘などの副作用が少ない

ベースはテープ剤のみで疼痛に合わせて
用量調整がしにくい

レスキュー製剤の使用 방법에注意が必要

タペンタドール製剤の特徴

腎機能障害の影響が少ない

嘔気、便秘などの副作用が少ない

ノルアドレナリン再取り込み阻害作用あり

同成分のレスキュー製剤がない

ヒドロモルフォン製剤の特徴

腎機能障害の影響が少ない

薬剤相互作用が少ない

低用量から開始出来る

ベース製剤は1日1回の服用でよい

<オピオイド換算表>

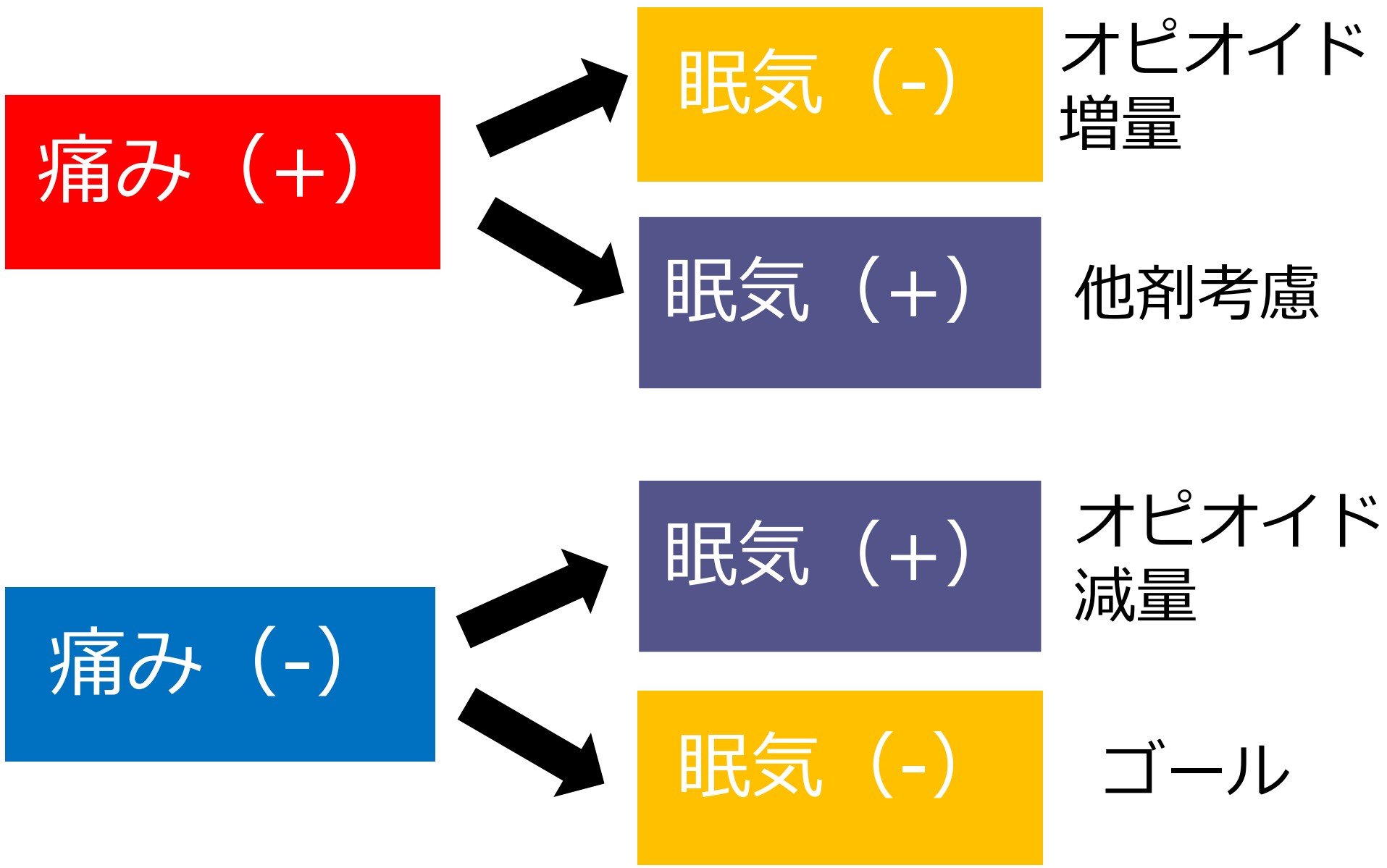
オピオイド鎮痛薬の1日投与量の目安

タペンタ錠	ナルサス錠	MSコンチン錠	オキシコドン錠	フェントステープ
	2m g			
50mg			10m g	0.5mg
	4 m g	20m g		
100mg	6m g	30m g	20m g	1m g
200mg	12m g	60m g	40m g	2m g
300mg	18m g	90m g	60m g	
400mg	24m g	120m g	80m g	4m g

医療用麻薬の使い分け

- 腎機能障害時はモルヒネを避ける
- 便秘などの副作用が問題となる場合
フェンタニルやタペンタドールが望ましい
- 緩和すべき呼吸困難がある場合
フェンタニルやタペンタドールを避ける

オピオイドの効果判定



レスキューの上手な使い方

ベース製剤の1日投与量の1/6が目安

ベース製剤と同じ成分にこだわる
必要はなく飲みやすい剤型で選択を

1日の服用回数に制限はなく
レスキューが定時服用薬の投与量の目安に

体動時痛などの予防的レスキューは
口腔粘膜薬は30分前 経口投与薬は60分前

本日のテーマ

- ・ 疼痛とは？
- ・ オピオイドの種類と特徴
- ・ オピオイド導入時における服薬指導のポイント

服薬指導のポイント

- ・ 疼痛に対し使用する場合は
薬物依存はしない
- ・ ベース製剤は定時に服用する
- ・ レスキューは1時間間隔を空ければ
繰り返し使用できる
- ・ 副作用は便秘 嘔気 傾眠があり
便秘は予防的に 嘔気は頓服で対応する

最後に

疼痛管理は薬剤投与だけではなく

ポジショニングの指導

リラクゼーションなどの心理的アプローチ

患者さんとのコミュニケーションも大切

ご清聴ありがとうございました